

北海道社会学会ニュース

H. S. A. NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局
〒060-0906 北海道札幌市東区北6条東3丁目3-1 LC北6条館6階
北海道NPOサポートセンター気付
FAX: 011-299-6941 E-mail: socio@npo-hokkaido.org 担当 畑
郵便振替口座 02760-3-3085 URL <http://www.hsa-sociology.org>

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

c/o Hokkaido NPO Support Center,
LC Kita Rokujokan., Kita 6 Higashi 3 3-1, Higashi-ku,
Sapporo, 060-0906 JAPAN

編集責任者：今井順（庶務理事） 北海道大学大学院文学研究科 jimai@let.hokudai.ac.jp
〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目 TEL 011-706-4089

第62回北海道社会学会大会について

梶井祥子（研究活動委員長）

第62回北海道社会学会大会は2014年6月7日（土）に、札幌大谷大学（札幌市東区）で開催されました。札幌大谷大学は2012年に「社会学部」を新設し、初めての大会会場となりました。一般報告は12本で、午前は1部会、午後は2部会という構成で開催されました。

午後には『日本の不平等』を考えるあたらしいパースペクティブを求めて」というテーマで特別セッションを企画しました。東京から気鋭の研究者2名（有田伸氏、竹ノ下弘久氏）にお越しいただき、研究活動委員会の今井順会員とともに、現代日本が取り組まなければならない焦眉の課題について活発な議論が交わされました。全体で2時間のセッションでしたが、限られた時間内とはいえ、この分野での先駆的な研究過程に触れることができたことは有意義でありました。

大会参加者数は、一般会員39名、院生会員6名、非会員8名の計53名でした。

総会終了後には、大学内のホールにおいて懇親会が開かれました。昨年の試みを引き継ぎ、飲料とオードブル・特製弁当を取り寄せ、アットホームな手作りの懇親会となりました。懇親会費をふくめて大会参加費3,000円のみで運営しましたが、今回は会場校の支援によって実現した面もあり、今後に向けては検討の余地もあるでしょう。参加者数は32名にとどまり、フレッシュな参加が思ったほど多くはなかったことが残念でした。次年度大会会場校である旭川大学の犬野剛志会員には、今後研究活動委員会にご参加頂き、情報を共有しながら来年の開催に向けて活動してまいります。

最後になりましたが、今大会運営にあたってくれた会場校の関係者、および学生のみなさんに心より感謝申し上げます。なお、大会運営のあり方につ

いては、1日開催の是非、懇親会のもちかた、特別セッションのテーマなど、広く会員の皆様のご意見を募っております。お近くの理事あるいは研究活動委員にお伝え頂ければ幸いです。今後とも会員各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

第62回大会特別セッション（「日本の不平等を考えるあたらしいパースペクティブを求めて」参加感想記

濱田国佑（東京女学館大学）

第62回大会では、『日本の不平等』を考えるあたらしいパースペクティブを求めて」と題した特別セッションが開催されました。以下では、特別セッションに参加した感想について簡単に記すことにしたいと思います。

ニューズレター第98号でも紹介されているように、本セッション全体を貫くテーマは、日本社会の新しい不平等を考える上で、正規／非正規という雇用形態による分断をどのように位置づけるかという問題であったように思います。近年の日本では雇用の流動化が進んでおり、非正規雇用の割合は年々増加の一途をたどっています。また、その結果、職業分類や職業威信といった伝統的な階層指標は、それだけではあまり重要な意味を待たなくなっているように感じます。実際、筆者自身が社会調査データを分析する際も、伝統的な階層指標が人々の行動や意識をほとんど説明しないという場面にしばしば遭遇します。

このように日本における不平等の構造が大きく変化している中、正規／非正規の分断を理論的・実証的に位置づけなおすという本セッションの試みは、時宜にかなった非常に重要な取り組みであると感じました。また、報告者はいずれも当該分野における第一線の研究者であり、大変興味深くそれぞれの報告を拝聴しました。

まず、東京大学の有田先生による第一報告では、正規／非正規という雇用形態による格差がなぜ生じているのか、また、いかにして正当化されるのかという点について分析が行われ、ジェンダー研究などにおいて提示された「男性稼ぎ主モデル」、あるいはローゼンバウムの「能力の社会的構成理論」に基づいたスクリーニング論、人的資本論的な説明などを参照しながら考察が行われました。

北海道大学の今井先生による第二報告では、日本における正規雇用成立の背景や非正規雇用の拡大について、雇用関係およびそれを生み出す「産業的シティズンシップ」に着目しながら考察が行われました。その上で、日本では「企業別シティズンシップ」が、近年の非正規雇用の再規制の流れに見られるように、正規／非正規の格差をフォーマルな形で固定化するものとして作用しているのではないかといった点が指摘されました。

上智大学の竹ノ下先生による第三報告では、雇用関係を不平等の源泉とみなすゴールドソープによる階級論の日本社会への適用可能性について検討が行われました。従来の日本社会は、日本的雇用慣行や企業別労働組合などの存在によって、ゴールドソープの階級論が当てはまらないと考えられてきましたが、雇用の流動化の進展によって、こうした関係が変化したのかという点について分析が行われました。その結果、男性の場合は階級と非正規雇用との関係に変化が見られなかったものの、女性の場合非熟練職業において非正規雇用が有意に拡大しており、雇用関係の階級間格差が拡大していることなどが指摘されました。

このように、それぞれの報告者から大変刺激的な問題提起が行われ、セッションの後半では、活発な質疑応答や議論が展開されました。また、聴衆に関しても、例年と比較して、本州などの大学から幅広い層の参加者が見られました。今回のセッションは、既存の分析枠組みを自明のものとして無批判に踏襲するのではなく、流動化が進んだ現代の日本社会において、日本社会の不平等を説明する新たな分析枠組みや理論を模索することの重要性について、改めて認識する良い機会になったように思います。

第 62 回北海道社会学会総会について（第 62 回北海道社会学会総会議事抄録）

日時：2014 年 6 月 7 日（土）17:45～18:30
会場：札幌大谷大学中央棟 4 階 響流ホール
議長：西浦功会員

議題

1. 2013 年度決算（加藤会計理事）
提案（後掲）のとおり承認された。

2. 2014 年度予算案（加藤会計理事）
提案（後掲）のとおり承認された。
また、財政健全化計画について、フロアから会費の値上げも含めた検討を行う必要性を指摘する提案があった。今後、それも含めて計画を検討することが承認された。
3. 会則・選挙規則の改定について（今井庶務理事）
提案（後掲）のとおり承認された。
改定された会則・選挙規則の施行について、次回選挙以降に適用されることが承認された。

報告

1. 庶務報告（今井庶務理事）
 - 1-1. 会員異動（2013 年 7 月～2014 年 6 月）
新入会員 2 名・退会会員 10 名（うち自然退会 2 名）の計 8 名減で、6 月 7 日現在の会員数は一般会員 110 名・学生会員 21 名の計 131 名。
 - 1-2. 理事会開催
2013 年 12 月、2014 年 2 月、6 月の 3 回およびメールによる持ち回りで随時開催した。
 - 1-3. 会報の発行
4 号発行した（No. 96～99）。
 - 1-4. 学会研究奨励賞の交付
審査の結果、松井理恵会員の申請を採択。
2. 次回第 63 回大会開催校について（原会長）
旭川大学（札幌市）に決まり、原会長より紹介、開催責任者となる大野会員より挨拶があった。

第 3 回理事会報告

日時：2014 年 6 月 7 日（土）12:00～12:40
会場：札幌大谷大学 中央棟 2 階 演習室 4
出席者：原会長、内田・梶井・加藤・品川・今井の各理事、小内副会長、笹谷理事は欠席

報告

- 上記の総会における議題のほかは以下の通り。
1. 編集委員会報告（内田編集委員長）
・『現代社会学研究』第 27 号の発刊について報告があった。
・来年度予算とのかかわりで、印刷所との契約を再検討する必要性が指摘された。
 2. 庶務報告（今井庶務理事）
 - 2-1. 会費の納入状況について
・2014 年 6 月 5 日現在の 2013 年度分までの会費完納者数が 104 名（昨年度までの会員数の 77.6%）であることが報告された。
 - 2-2. その他
・会員数を増やすための方策について、道内各大学で社会学関連科目の担当者をリストアップす

ることや、学会大会において社会学教育にかかわるセッションを作るなどの工夫が必要である旨話し合った。

議題

上記の総会における議題と同じ。

委員会報告

編集委員会（内田編集委員長）

『現代社会学研究』第28巻（2015年6月発行予定）の原稿募集について

① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』第28巻の投稿原稿を募集します。投稿を希望される方は、学会ホームページから「投稿申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局（socio@npo-hokkaido.org）に宛ててメールの添付書類として送信してください。その際の添付ファイル名は「投稿申込○○.doc」（○○には申込者の氏名を入れる）としてください。申込の締切は、8月31日（日）まで（同日必着）とします。申込者には数日のうちに事務局から申込書受理のメールが返信されますので確認してください。申込の時点で2014年度までの会費が完納されていないと申込は受理されませんのでご注意ください。審査用原稿は「執筆要項」の指定に基づくA4サイズ16枚以内のPDFファイルとして作成し、10月31日（木）必着で学会事務局宛てメールに添付してお送りください（従来は、投稿原稿3部を郵送していただきましたが、これは不要です）。その他の詳細については、学会ホームページに掲載されている最新の「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読してください。また、「編集・投稿規程」および「執筆要項」に無いようなことに関しては、日本社会学会社会学評論の「執筆要項」を準用することにしています。何かご質問がある場合は、下記のメールアドレスにお問い合わせ下さい。

（札幌学院大学大学・内田 司：tsukasa@sgu.ac.jp）

② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』第28巻に書評を掲載する対象書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問いません。会員の著作（会員の単著、または会員が編著者になっているものが原則）で書評として是非取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情報（著者名、書名、発行年、版元名）を学会事務局（socio@npo-hokkaido.org）までお寄せください。

自薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ付を希望するか否かについてもお伝えください。またできれば書籍現物もお寄せください。特に指名

がない場合は執筆者を編集委員会で決定いたします。当該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象とするのにふさわしいと思われるものについても可とします。締切は、10月31日（木）必着です。情報を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決め、結果をご連絡いたします。

③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

書評原稿を募集します。必ずしも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何らかの形で言及しながら、ある研究テーマについて展開する内容となっても構いません。また海外事情の紹介やある分野についての最近の研究動向などに触れた「往来」の原稿も募集します。いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量はリプライがつく場合は6,000字程度、つかない場合は3,000字程度とします。締切は10月31日（木）必着で、学会事務局（socio@npo-hokkaido.org）までメール添付でお送りください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込○○.doc」ないし「往来投稿申込○○.doc」（○○には申込者の氏名を入れる）としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。「往来」の投稿が少ない場合などには、編集委員会から個別にご執筆をお願いすることもあります。その折にはどうかよろしく願い申し上げます。

北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006年より研究奨励金を交付しています。については下記により奨励研究を募集いたします。ぜひご応募ください。

1. 募集件数：2件（1件5万円）
2. 応募資格：本会会員（若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す）
3. 条件：奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法：まず応募用紙を庶務理事あて e-mail でご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。
 - ①研究テーマ、②応募者（氏名・所属）・郵便番号・住所・TEL・FAX・e-mail アドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等（具体的に）、④研究の方法と予想される成果（具体的に）、⑤推薦会員の署名と印
5. 提出期限：2014年10月31日（木）必着
6. 提出先・問い合わせ先：今井順（庶務理事、あて

先は1ページ編集責任者欄参照)

日本社会学会理事からのお知らせ

—世界社会学会議と「世界へのメッセージ」に関する報告

小内透 (副会長)

7月13～19日、パシフィコ横浜を会場に、第18回ISA世界社会学会議が開かれました。ISAの公式集計によると、全体では6087人、日本からは986人の参加で、好評のうちに閉会しました(世界社会学会議組織委員長・長谷川公一先生からのメール情報)。

この会議にあわせて、社会学関係の諸学会から"Messages to the World" (「世界へのメッセージ」)が公表されました。北海道社会学会からも櫻井義秀前会長・原俊彦会長が作成した"Hokkaido Sociological Association's Message to the World"が掲載されています。"Messages to the World"は、以下のとおり、世界社会学会議の後も社会学系コンソーシアムのサイトで閲覧できるようになっています。

"Messages to the World" :

<http://www.socconso.com/message/index.html>

"Hokkaido Sociological Association's Message to the World" :

<http://www.socconso.com/message/06HokkaidoSociology.pdf>

会員異動 (2014年6月～8月)

新入会員・退会ともになし

訃報 笹森秀雄先生

昭和63年6月から平成3年6月まで北海道社会学会の会長を務められました笹森先生が、本年6月13日に亡くなりました。先生は長年にわたり日本社会学会理事も務められ、当学会のみならず、日本の社会学全体の発展、後進の育成に多大な貢献を果たされました。当学会を代表し、改めて感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り致します。

2014年8月7日 北海道社会学会会長 原 俊彦

会員情報の更新について

住所や所属が変更になったときは、遅滞なく郵便かメールで事務局(担当:畑 socio@npo-hokkaido.org)までお知らせください。その際、e-mail アドレスもお忘れなくご登録ください。

会費の納入について

2014年度会費または未納分会費について、同封の郵便振替用紙[郵便振替口座 02760-3-3085]にてすみやかに振り込み手続きをお願いします。年会費は一般会員6,000円、学生・院生会員4,000円です。2014年度会費を納入されていない方には、機関誌第27巻(本年6月発行)をお渡しできません。5年間滞納されると、自然退会の扱いとさせていただきます。

学会ホームページの移転について

2012年度よりHPアドレスが新しくなっております。新しいURLは<http://www.hsa-sociology.org/>です。リンクやブックマークの変更は、早めをお願いいたします。

また現在、学会HPでは日本社会学会と西日本社会学会へのリンクを設けておりますが、今後もリンク先を増やす方針で準備を進めております。(a)個人HPをお持ちの方で学会HPへのリンク登録を希望される場合や、(b)北海道社会学会がリンクを張るべきと思われる有用なサイトがある場合は、①URL、②メールアドレス、③所属機関等、④氏名の4点を学会事務局宛メールにてお知らせください。